

講演会のお知らせ

TAD
アート・レクチャー

2026

2/14 土

14:00—15:30 (開場 13:30)

聴講無料・申込不要

会場 | 3階 ホール

定員 | 80名

贋作の舞台裏

——美の世界で人を欺く

“作品”が生まれる背景を探る

なぜ、美術品の贋作は後を絶たないのか？

2024年夏、日本中の美術館を震撼させたベルトラッキ贋作事件は記憶に新しいことでしょう。元日本経済新聞美術担当記者という異色の経歴の美大教授 小川敦生氏が、ナチスをもだましたフェルメールの贋作事件や、日本で起こった肉筆浮世絵の贋作事件などの事例を取り上げつつ、贋作が生まれる謎に迫ります。



講師略歴 小川敦生（おがわ・あつお）

1959年北九州市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業。日経BP社の音楽・美術分野の記者、「日経アート」誌編集長、日本経済新聞美術担当記者等を経て、2012年から多摩美術大学芸術学科教授。「芸術と経済」「音楽と美術」などの授業を担当。日本経済新聞、NIKKEI Financial、ONTOMO-mag、東洋経済、和楽 web、美術評論など多くの媒体に記事を執筆。多摩美術大学発行のアート誌「Whooops!」編集長。主な執筆記事は「パウル・クレー 色彩と線の交響楽」（日本経済新聞）、「絵になった音楽」（同）、「ヴァイオリンの神秘」（同）、「画鬼、河鍋曉斎」（同）、「雪を愛す」（同）、「龍安寺に思う」（同）、「藤田嗣治の技法解明 乳白色の美生んだタルク」（同）、「名画に隠されたミステリー！ 尾形光琳の描いた風神雷神、屏風の裏でも飛んでいた！」（和楽 web）など。著書に『美術の経済』（インプレス）。

【臨時保育室を開設します】



本イベントでは、臨時保育室を開設いたします。
詳しくは当館ホームページをご覧ください、
美術館にお問い合わせください。

- コレクション展・企画展の展示室に入室の場合は観覧券が必要です。
- 会場での飲食、講演会の録音・撮影などはできませんので、予めご了承ください。
- ヒアリンググループをご利用の場合は事前にお申し出ください。
- 内容等、都合により変更する場合があります。詳細は当館ホームページ等で確認ください。

アート・レクチャーとは

「TAD アート・レクチャー」では、富山県美術館に、アーティストや研究者など、一線で活躍するさまざまな方をお招きし、広く作品やアートの魅力に迫る機会を提供します。今まで気づかなかった意外な事実や作品の見どころが深まる機会です。

【お問い合わせ】

〒930-0806 富山市木場町 3-20 富山県美術館
TEL | 076-431-2711 FAX | 076-431-2712

